

# 資料館だより

2025年 春号

## contents

館長あいさつ	1
イタイイタイ病の教訓を次世代へ	2
トピックス	2
四大公害病を語り継いでいくために	3
イタイイタイ病資料館運営会議	3
ニュース	4
資料館インフォメーション	4

令和7年  
2月16日(日)

## 「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」開催!



有賀厚生部長挨拶



富山市立太田小学校の児童の発表



野田八嗣館長の事業報告



富山市立西部中学校の生徒の発表



富山県立富山中部高等学校の生徒の発表



金沢大学金子周一特任教授特別講演

## 人工知能 (AI) 時代の環境問題



AIは、製造業や農林畜産漁業あるいは医療などのサービス業まであらゆる業種で生産性・効率性・安全性などを向上させ、企業ビジネスモデルは、根本的に変わろうとしています。AI時代では、多くの業務が人間からAIに代替されるようになります。

一方、データセンター (DC) の電力消費量は、AIの普及によりDCの需要増大で増え続けています。今後は、従来とは比較にならないほどの膨大な計算処理が発生する生成AIが汎用されるようになると、DC電力消費量は、更に増加します。国際エネルギー機関 (IEA) の試算では、2026年のDC電力消費量は、22年から最大で2.3倍になると推定されています。欧米のDC集積地では、既に供給力が逼迫しています。

米国の巨大テック企業であるグーグルやアマゾン、小型モ

### 富山県立イタイイタイ病資料館 館長 野田 八 嗣

ジュール原子炉から電力購入を計画しているとのニュースも流れています。AI時代のリーダーである米国では、気候変動抑制に関するパリ協定を離脱するとも言われており、化石燃料に対し「ドリル、ベイビー、ドリル (掘って、掘って、掘りまくれ)」との発言も耳にします。

また、半導体や最新の機器には、レアアースを含むレアメタルは不可欠です。これらの鉱物資源は、リサイクルも進められていますが、各国で取り合いになっており、採掘・精錬では、環境破壊や環境汚染が問題になっています。

現状では、AIがないことが考えられない社会となってきています。AI時代の環境問題には、不安要素も多々ありますが、環境問題対策のための「グリーンAI」など更なる科学技術の進歩と発展がこれらの問題をも解決してくれることを願うばかりです。

# イタイイタイ病の教訓を次世代へ

2月16日（日）に「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。会場のイタイイタイ病資料館に64人とオンラインで11人の参加がありました。

有賀厚生部長の挨拶の後、次代を担う若者たちによる発表では、富山市立西部中学校2年生の生徒4人が、富山では、富山大空襲とイタイイタイ病の二重の苦しみを体験した方々がいることを知り、「富山をもっと大事にしていきたい気持ちになった」と訴えました。次に、富山市立太田小学校5年生の児童7人は、イタイイタイ病資料館を見学したり、調べたりして分かったことをスライドにまとめ、「この恐ろしい病気は忘れてはいけない事実。多くの人に伝えていきたい」と訴えました。発表の3番目、富山県立富山中部高等学校1年生の生徒4人は、イタイイタイ病は、何に影響を受け、何に影響を与えたかを産業（鉄道）、社会（風評被害）、文学の視点でまとめ、調べた成果を発表しました。

引き続き、野田館長が当資料館の今年度事業を報告しました。

フォーラムの後半は、金沢大学情報医学開発講座特任教授の金子周一先生に「なんでもが情報で動く時代がやってくる？」の演題で特別講演をしていただきました。ロボットによる問診は、医者と同じようになりかなり正確になり得る根拠を説明されました。また、認知症の患者が夜中の間もずっとロボットと会話し、退院することができた事実も話されました。10年後にはロボットが医療現場に入ってきて不思議ではないということでした。参加者は興味深く聴講していました。



富山市立西部中学校の生徒の発表



富山市立太田小学校の児童の発表



富山県立富山中部高校の生徒の発表

## 参加者の声

県外出身ですが、富山県では資料館を通じて子供へのイ病の教育が充実していることが分かりました。（会場 30歳代）

イタイイタイ病そのものから視点を変えて、多角的に探究されていて聞いてよかったです。（会場 40歳代）

小学生中学生高校生の皆さん方の素晴らしい発表が聞いて感動させていただきました。指導された先生方のお力も伝わってきた気がします。（会場 60歳代）

特別講演はAIに関する長所の知識を得ることができました。話術も巧みで飽きることがありませんでした。（会場 50歳代）

小学2年生の息子がイタイイタイ病について調べたいということで今回のフォーラムに初めてWEB参加しました。富山県の子供たちにとってもイタイイタイ病が過去のものとなっているのを聞いて風化させないために、歴史は繰り返すというような、似たような状況になったときに自分がどう行動するのかという点からもぜひこの活動を続けてほしいと思いました。（オンライン 40歳代）

## トピックス イ病の問題を肌で感じてみませんか

### 環境省職員研修会

令和6年12月12日（木）・13日（金）の両日にわたって、環境省の職員23名、引率者2名の方々が研修に来られました。

1日目は、主に当資料館の展示解説や語り部の小松雅子さんの講話を聞きました。その後、汚染農地の復元地域を見学しました。

2日目は、清流会館を見学し、イタイイタイ病対策協議会の平岡孝進事務局局長や江添良作会長の説明を聞きました。その後、神岡鉱業の高橋十志也取締役管理部長の講演を聞きました。最後に、2日間を振り返って、グループでディスカッションを行いました。



語り部小松雅子さんの講話



グループディスカッションの様子

### グループディスカッションから

イ病者が激甚の症状であり、被害団体の苦勞と原因企業の努力をつなげて考えることができた。

イ病関係の文書管理の大切さがわかった。資料の収集・保存について政府としてどのような後押しができるか考えたい。

イ病問題は立場によって見え方が違う。終わった問題なのか、まだなのか。後世にどうつないでいくかが大切だと思った。

2日間の研修をととして、イ病の問題を自分事化できたこと、現場主義の大切さを実感できたことがよかった。

# 四大公害病を語り継いでいくために

## ●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。

10月19日（土）、四大公害病（水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）各資料館の語り部が富山県に参集し、「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催したところ、会場とWeb参加を含め72名の参加がありました。

前半の語り部講話では、「水俣市立水俣病資料館」の語り部吉永理巴子さんは、「自分が水俣病について語れるまで40年かかりました。しかし、何も悪いことをしていない父や祖父の病気のことを友達等に隠す自分が家族を差別しているのではないかと気づき、水俣病について調べ、伝える決心をしました。」と話されました。当日は、母親を主人公にした紙芝居とおして、水俣病の悲惨さを紹介されました。

「新潟県立環境と人間のふれあい館」の語り部曾我浩さんは、60年ほど前、第一次訴訟で原告の一人であった伯父の支援活動を始めました。体が不自由になった患者を訪ねた際に「『原因をはっきりさせて俺のかたきをとってくれ』と泣きながら言われたことを鮮明に覚えている」というエピソードを紹介されました。

「四日市公害と環境未来館」の語り部伊藤三男さんは、四日市公害にかかわる経緯を語られました。1972年の判決で、その時の裁判長は、「経済性を度外視」した公害防止対策が必要と判決しました。この判例は、他の公害裁判に大きな影響を与えたと話されました。当時のことを経験している人が少なくなった現在、語り部の在り方や担い手をどのようにしていくか、名古屋市とも相談しながら進めていきたいと話されました。

「富山県立イタイイタイ病資料館」の語り部高吉キヨ子さんは、バスガイドとして働いていたが、婦中町に嫁いできてから、家事に加え、農作業や幼い義弟たちの世話をしたこと、姑さんから聞いた当時の家庭生活や入院生活の様子を語られました。

後半の意見交換会では、4人の語り部の方にイタイイタイ病対策協議会江添良作会長と当資料館野田館長を加え、「語り部活動で大切にしてきたこと」と題して、交流しました。

- ・亡くなった方がどのようなことを伝えてほしいかを常に考えるようにしている。また、聞き手の世代に合わせて話す内容を変えるようにしている。
- ・水道局で働いていた経験や現在農業をしている実感をもとに、環境の大切さを訴えるようにしている。
- ・四日市公害は、四日市だけの問題でないこと、また問題の克服にどのように取り組んできたかを若い人が、他の



吉永理巴子さんと本田館長



曾我浩さんと渡邊主査



伊藤三男さん



高吉キヨ子さん



江添良作会長と野田館長

### 四大公害病 各資料館の語り部



意見交換会

- 都道府県の人に伝えられるようになってほしいと願って話している。
- ・現在でも健康より産業・経済優先の国がある。もう公害で苦しむ人が出ないように、今後も書籍等で勉強を続けたい。

### 参加者の声

とても得難い体験ができたのもこうした資料館が存在していることによるもので、資料館の重要性を強く感じた。(50歳代)

語り部相互の質問は、やはり必要なこと、重要なことが出てきて、興味深く、有意義だと思った。(60歳代)

語り部の方々のお話は、毎回胸にしみる。地道な活動ですが、今後とも継続されることを希望する。(70歳以上)

Webでの出席機会が確保でき本当に感謝する。同時に、同じテーマに対してお話しただけの貴重な企画に、感謝しかありません。今後も語り部さんの想いを少しでも理解できる機会として継続させてほしい。多くの開催関係者の皆さんに、感謝致します。(60歳代)

語り部さんにより、被害の実態が詳しく分かった。カドミ汚染の加害企業への立ち入り調査が続けられている力の源が理解できた。(70歳以上)

## イタイイタイ病 資料館 運営会議 12月20日(金)



この会議は、鏡森定信資料館名誉館長を座長とし、環境省堀内直哉室長をオブザーバーに迎え、各委員の方から、当資料館の運営を円滑に行うため、運営に関する事項や事業実施に関する事項について協議することを目的としています。

当日は、各委員のそれぞれの立場から、率直な意見が出されました。

### 【委員の主な意見】

- ・情報発信は非常に大事なのでホームページ、メールマガジンをうまく活用していくことが大切である。
- ・教員の研修については、市内のこの地域の先生方にがんばってほしい。
- ・主体的な学びに結び付けることができるよう、副読本に動画を入れることができないか。小学校だけでなく中学校も新年度に配布したらどうか。
- ・学校課外学習サポート事業の募集を新年度に入ってから行ってはどうか。
- ・学校へ語り部講話の出前講座をもっと進めてはどうか。
- ・当館で所蔵しているパネルや写真を学校に貸し出すことはできないか。

## 神通川清流環境賞の表彰式がありました



受賞者



意見交流会

「神通川清流環境賞」の表彰式（神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会とイタイタイ病対策協議会が主催）が、2月22日(土)にイタイタイ病資料館2階交流学習ルームで行われました。

7回目となる清流環境作文コンクールには、校外学習などで当資料館を訪れた小学生などから1091点の応募があり、選考審査の結果、個人賞部門で最優秀賞9名と



優秀賞17名の受賞者に表彰状と盾、記念品が贈呈されました。また、学校賞の小学校1校と学級賞の39学級が表彰されました。



最優秀賞の内、高学年の3名が自身の作文を読み上げ、意見交流会では、次のような環境への思いを述べていました。

- ・家で簡単にできるごみを減らすことをしたい。そして、自由研究で知ったインドのナラヤンさんのようになるような会社で働きたい。
- ・3年生のころごみ拾いをやっていたが、最近やっていないので、まずごみ拾いからやっていきたい。
- ・海などにプラスチックのごみが落ちているから、夏休みに拾いたい。近くに進んでやっている人がいるので、自分もいっしょに取り組みたい。

## 資料館インフォメーション

### 令和6年度 下半期の行事経過

令和6年

10月19日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い  
～語り部による伝承会～

12月20日(金) イタイタイ病資料館運営会議

令和7年

2月16日(日) イタイタイ病を考える県民フォーラム

### 令和7年度 上半期の行事予定

4月25日(金)～5月6日(火・振休)

春の特別企画展

「資料館未公開写真展」(仮題)

4月29日(火・祝日)春の特別講演会

6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会

7月下旬 イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

8月上旬 夏休み自由研究講座

8月下旬 イタイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、ホームページ等でお知らせいたします。

### ○語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体（原則10名以上）で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。(来館される3週間前までにお申し込みください。)

※詳細は資料館ホームページをご覧ください。

### 春の特別企画展

『資料館未公開写真展』(仮題)を開催します! (参加無料)

イタイタイ病資料館で保管している写真から、これまで未公開の写真パネル展示します。

期間: 4月25日(金)～5月6日(火・振休)

場所: イタイタイ病資料館

※詳細については、資料館ホームページ等でお知らせします。

### 課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

令和7年3月25日(火)より募集を開始します!!

新年度も多く児童・生徒・学生にイタイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接する「四季防災館」を見学する場合は無料区間が延長され、より利用しやすい内容となっています。

高速料金については、学校の所在地が朝日町、入善町、黒部市、氷見市、小矢部市及び南砺市の場合のみ無料送迎バスの対象になります。

利用条件など詳細については、資料館までお尋ねください。

### ○メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】